南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標

いのちの輝きは
聖性の光
救いの泉

〒902-0067　那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人　W.F.バーント司教　1部40円
http://www.naha.catholic.jp/

2024年2月11日　第51回 教区の日を盛大に祝う

　教区創立を記念して定められた教区の日。安里教会において感謝のミサが捧げられ、教区民こぞって教区の日をお祝いした。今年はペトロ神父様が修道生活75周年の記念を迎え、神父様の長きにわたる教区でのご奉仕と様々な活動に感謝が捧げられた。また結婚60周年と50周年を迎えた信徒のカップルにお祝いの祝福が与えられ、喜びを分かち合った。

共同司式されるウェイン司教と司祭団

ペトロ神父の功績を
紹介されるウェイン司教

感謝のミサに参加した多くの教区民

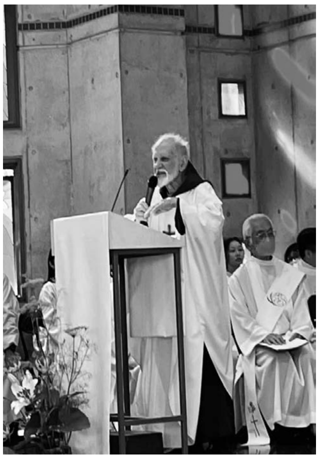
ペトロ神父と２組のカップルへの感謝状

挨拶する大谷ご夫妻

挨拶する具志堅ご夫妻

2024 Naha Diocese Day!

The Mass attendees of the Holy Eucharistic celebration officiated by His Excellency Bp. Wayne Berndt,OFM Cap.



Fr. Peter Von Essen, OFM Cap.
Thanking everyone for joining him on his 75th year in Religious life.

Mr. and Mrs. Otani of Asato Church receiving their plaque of appreciation for their 60th year of Married life.

Mr. and Mrs. Gushiken of Asato Church receiving their plaque of appreciation for their 50th year of Married life.

Cake cutting by the celebrants!!!
Fr. Peter, Mr. and Mrs. Otani and Mrs. Gushiken.

The Party Program participated by the Diocesan Choir, FIHM Sisters of Yonabaru and parishioners from different parishes

天のことばを話しなさい

クレーバー・ディ・ソーザ神父
与那原教会　主任司祭

「わたしは、自分から話したのでありません。わたしを遣わした父ご自身が、わたしが何を言い、何を話すべきかをお命じになりました。わたしは、父の命令が永遠のいのちであることを知っています。それ故、わたしが話していることは、父がわたしに言われた通りを、そのままに話しているのです」（ヨハネの福音書十二章49～50節）。

今日の御言葉から、イエスのことばは、御父の命じたものであることを教えてくださいました。イエスが話したこと全ては御父から来たのです。すなわち、イエスは御父が何をすべきかを命じたとおりに言われたのです。後半でイエスが話したことばは、最もインスピレーションが豊富です。イエスは、「わたしは、父の命令が永遠の命であることを知っています。それ故、わたしが話していることは、父がわたしに 言われた通りを、そのままに話しているのです」（ヨハネ十二：50）と言いました。何と素晴らしいことでしょう！

ヨハネの福音書二十章21節で、イエスは「平安があなた方にあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします」と言いました。このお話はイエスが、ペテロ、ヤコブ、ヨハネや、その他の弟子達だけに言ったのではなく、今生きている私たちにも言っていることに注目してください。イエスが父なる神のことば、すなわち、天からのことばを話されたように、私たちも天の御言葉を話す必要があります。

キリスト教では、私たちは、私自身のために生きていません。私たちは、主のために生きます。私たちは自分のためや自分から言いません。私たちはイエスがそうしたように、主のために、主から語ります。

私たちには、主から与えてくださる言葉があります。ヘブライ人への手紙十三章5～6節に、「・・主ご自身がこう言われるのです。・・私たちは確信に満ちてこう言います。・・・」と言われました。自分から言葉を話さないで、主の御言葉を話しましょう。

イエスのように、ことばの大先輩となりましょう。イエスは、「わたしは自分の言葉を話しません」と言われました。どうりで、イエスが何処においても勝利者だった訳です。イエスは、自然の力も支配しました。また、常に正確に何を言うべきか知っていたのです。そのため、地上において天の生活ができたのです。イエスは知恵を常に話していたのです。

神は言葉を通してご自身の力が放たれるように設計されました！言葉は限界がありません。なぜなら、言葉は霊の領域に入るからです。私は小部屋の中で話し言葉をしながら、全世界の何処においても影響を与えることができます。したがって、ある状況に対処するとき、私の口ら出てくる言葉が神の御言葉になるまで、御言葉にあって、私の霊を十分浸しましょう。私は、天から来た尊く神聖な御言葉を言うようになるでしょう。

祈り

私の人生は、神の恵みの証です。神の慈しみとあわれみは、私を毎日包みます！私は、今日神の栄光と完璧さの中を歩み、神の義をあらわし、御霊の治めを行ないます。イエスの御名によって。アーメン。

参考聖書

マルコの福音書十一章23節

まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、『動いて、海にはいれ』と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになります。

箴言六章2節　あなたの口のことばによって、あなた自身がわなにかかり、あなたの口のことばによって、捕えられたなら、

ローマ人への手紙十章9～10節　なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

たて軸よこ軸

神さまとの出会いから六十年

安里教会　フランシスコ・ザビエル　大谷　勝也

去る二月十一日、那覇教区の日に結婚六十年周年のお祝いをしていただき、感謝の醒めやらぬうちに、過ぎ去りし日の思い出を記してみます。

結婚式は、妻の希望で福山市にあるカトリック福山教会で挙げました。妻が青春を過ごし、マリア・スコラティカの霊名を頂いた地です。未信者であった私は、結婚講座も受けず、両家の親族、園児全員に囲まれて式に臨みました。

その後私たちは、横浜市御所山にあるカトリック戸部教会の近くに住み、妻と共に毎日曜日ごミサに与る生活をしました。翌一九六五年八月十五日、洗礼により天の国に籍を得ましたので、来年二〇二五年には受洗六十周年を迎えます。

さて、この度の教区の日のごミサで、孫の大谷夏乃音（かのん）と桜乃音（みのん）が共同祈願と聖書朗読をしてくれました。夏乃音は、沖縄への移住を決めるきっかけとなった孫です。ヨチヨチ歩きの頃、信徒も祭壇を囲んで捧げられるミサで二歳の夏乃音は、古川神父様の足にまつわり付き、そのまま、ミサが終りました。それが時を経て侍者をするようになり、私より背が高く、共同祈願の列に並んだ姿を目にした時は、神様のお恵みを感じ、目頭が熱くなりました。

そして、桜乃音にも思い出があります。コロナの始まった頃、二人を預かっていたある日、静かに遊んでいるなと思い襖を開けてみると、白と黒の碁石を畳の上に巻き散らした真ん中に座り、碁笥の蓋に白石をいっぱい乗せ、その一つを「じいじい、キリストの体」と言って渡そうとしました。母親に抱かれて見た聖体拝領を真似したのでしょう。その子も昨年、初聖体のお恵みをいただきました。彼女の洗礼式の日、お御堂の中で泣きたて、皆さんに迷惑をかけた子が、私たちのお祝いの日に聖書朗読をしてくれたのです。現在病魔と闘う私はどうしても感傷的になってしまいます。この子たちが人生の目標を見つけ、神様のご加護の下に、目標を実現するまで頑張るつもりです

この二人の父親、息子の尚平は名づけの時「尚」を選びましたが、今思えば、沖縄と縁があったようです。幼児洗礼の彼が沖縄で学び、教会を離れることなく今に至っていることに神様のお恵みを感じております。同時に辰年の祝福に与り、同じで聖堂で、同じ時間を過ごさせていただいたことは忘れがたい喜びでした。尚平が幼いころ、三笠教会に転籍し、神父様から会計を任されました。

伝票の整理と帳簿付けで、さほど難しくなく、専任の事務職員が採用されるまで二人の神父様のお手伝いをしましたが、いまだに、なぜ若い私が教会の仕事に引き込まれたか、分からないままです。

東日本大震災の年に仮住まいとして真嘉比に居を移し、翌年五月、古川神父様が安里教会に転任されたのを機に会計を引き受けました。それも三笠教会から続く神様のお導きだったのでしょう。毎週、仕事の合間に古川神父様から、教会について、信仰についてお話を聞き、自分なりに「主よ、主よという者が皆すべて天の国に入るのでない。父のみ旨を行うものだけがはいるのである」を心にとどめ、過ごしてまいります。

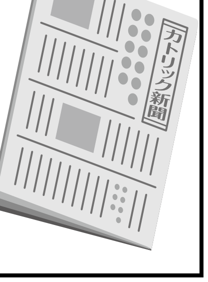
安里と開南を行き来する私たち家族を見守ってくださるフランシスコ神父様、古川神父様に導かれ、多くは望まず、三月十七日（信徒発見の聖母、私の誕生日）、四月七日、八月十五日、十二月三日（霊名の祝日）を日々目標に、神様が、「私のもとに来なさい。休ませてあげよう」って言ってくださるまで生きていきたいと思います。神に感謝。

NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001
住所　沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付　月曜日～金曜日（申込、相談など）
・営業時間　8:30～17:30
・営 業 日　24時間365日（緊急対応含む）

カトリック新聞休刊のお知らせ



先日の司教総会で、週刊有料紙としてのカトリック新聞の発行が2025年3月までで休刊すること、その後はオンラインでニュースを配信し、また月刊で無料の紙媒体を発行することが決められました。
これまでのご厚情を感謝申し上げますとともに、今後ともご協力をお願い申し上げます。
（カトリック新聞社編集部）

2024年2月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2024年2月6日（火）10:00～12:00　於・安里教会ホール。
会議の前に、フランシス神父の司式で聖体賛美式（ベネディクション）が行われた。

1. 報告及び連絡事項：司会は藤澤神父が担当。

・ウェイン司教が初めの祈りを行って開式された。
・前回（1月会議）の報告を新田が行い、承認された。
・ウェイン司教、2/13～17，定例司教総会のため、潮見（東京）へ。クレバー神父、2/15～3/15日、休暇のためインドへ。
フランシス神父とピーター神父、2/28～3/1、ベトナム人司牧者の集いのため大阪へ。
ウェイン司教、マイケル神父、津波古さん、2/23、福岡神学院閉校式へ。
・2/23日に行われる福岡神学院の閉校式について、津波古事務局長より説明が行われ、ウェイン司教からも補足説明が行われた。今後、司祭を志す志願者のためには、東京神学院や国外での養成も含め、その状況を考慮して対応していくことが報告され、引き続き司祭養成の責務に積極的に教区を挙げて取り組むよう要請がなされた。
・1月に行われた教区女性の会の新年会について、担当のフランシス神父から報告が行われた。まず、ウェイン司教からシノドスについて講話が行われ、その後パーティーで交流を深めたことが報告された。
・カプチン会の総会について引き続き責任者に任命されたマキシム神父から説明が行われた。カプチン会の規則変更に伴い、日本における責任者は地区長ではなく管区長代理とされたが、これまでと変わらず那覇の他、福岡、さいたまの各教区での司牧に従事し、フランシスカンとして特に沖縄に根差す方向性を再確認し、有意義な総会となったことが報告され、議長としてこの総会を指導したウェイン司教への感謝が述べられた。
・3月1日の「性虐待被害者のための祈りと償いの日」について、担当のマーシーさんから要請が行われた。毎年、四旬節第二金曜日にこの償いの日が当てられることになっており、特別な典礼式文によってミサを捧げるよう要請がなされた。また、小教区の事情に応じて主日のミサにこの意向を加えて祈ることができること等が説明された。
・2/20～22日にかけて、安里教会を会場に行われる「９条世界宗教者の会」の集いについて、ウェイン司教から説明が行われた。宗派を超えて日本国憲法九条を大切に守っていこうという取り組みで、日本だけでなくアメリカや韓国からも参加があり、カトリック正平協も関わっている。そのため会場として使用を許可しており、平和について国際的な取り組みへの理解を深めるチャンスにもなるので、司祭たちにも参加が呼び掛けられた。
・青少年担当のブイ神父から、若者たちに呼び掛けて、黙想の家でBBQを囲みながら、サマーキャンプや平和巡礼、クリスマス会などをリードしてくれる青年たちと忌憚なく話し合い、定期的に集って青年会活動の輪を広げていくことを確認したことが報告され、教区を挙げて青年たちをサポートするよう要請がなされた。
・ウェイン司教から、小教区を留守にする時は、必ず緊急時の連絡先や帰着の予定等を確実に知らせるよう司祭たちに要請がなされた。
・教区の日に関して、司祭は叙階25周年と50周年、修道者は誓願宣立50周年、信徒は結婚50周年・60周年を基本とすることが確認された。今年は、司祭・修道者の該当者がいないことから例外的に、カプチン会の慣習に倣って修道生活75周年を迎えたペトロ神父を祝うこととした。
・2023年度の司祭生活扶助費分担金の未納分と教区負担金について2/20までに教区事務所まで振込するよう要請が行われた。納付状況が小教区によってまちまちになっているので、司祭たちは会計担当者と確認して速やかに納付されるよう要請された。また、連絡不行き届きに備えて小教区の信徒代表や会計担当者の連絡先を教区事務所のマーシーさんに報告することが求められた。
・四旬節のカリタス・ジャパンからのポスター等を小教区へ持ち帰って掲示するよう担当のマーシーさんから要請があった。

2. 審議事項

・「教区の日」の行事は、典礼をボスコ神父、祝賀会等をフランシス神父が担当し、2/11（日）14:00から開催されることが確認された。各小教区では主日の典礼を午前のミサで行い、午後から行われる教区の日のミサは特別な典礼式文によって行われる。教会法上、両方に参加することも、またどちらか一方に参加するも適法であることが確認されたが、可能な限り教区行事への参加を呼びかけるよう要請された。
・2024年10月にローマで開催されるシノドス第二会期に向けた準備として「日本におけるシノドスのつどい」の開催と、教区レベルでのシノドス開催について説明がなされた。東京でのシノドスの集いにはウェイン司教他3名が参加するが、沖縄での集いはマイケル神父が責任をもって行うよう指示された。4月初旬に日本の司教団がローマへ行くため、教区シノドスはその後に行うよう考えてもらいたいとの司教提言を受け、討議の結果、4/28日に那覇教区のシノドスを行うことが決められた。宮古と石垣からの代表者には交通費の教区負担も確認された。この那覇教区シノドスについては次回も継続して審議される。
・2023年教皇庁宣教事業への取り組みとして、別紙に基づいて津波古事務局長から報告が行われた。小教区で集められた献金を教区でまとめて送金するため、献金日から2週間を目安に教区事務所に送金するよう要請が行われた。また、特別献金だけではなく、この事業に関する教区内の活動も求められているため、難民・移住・移動者の活動や司祭育成の活動、召命促進の活動などの更なる活性化が要請された。
・聖週間（3/24～3/31）について、ウェイン司教が主式するミサ予定の報告が行われた。
3/24、枝の主日：9時30分から開南教会。3/27、聖香油ミサ・安里で午後7時。28日、聖木曜日・開南、午後7時。
29日、聖金曜日・安里、午後7時。30日、聖土曜日・開南、午後7時。31日・復活の主日・具志川教会公式訪問、午前9時30分。
・ウェイン司教から、成人の洗礼式は聖土曜日の復活徹夜祭で執り行うことが基本であること、成人の入信にあたる7歳以上は、堅信と初聖体も同時に授けるよう注意が促された。幼児洗礼にあたる7歳未満の子どもには洗礼のみを授ける。成人と幼児の洗礼には異なった規則があるので典礼法規遵守の注意喚起がなされた。
・前回、聖職者たちの顔写真を「南の光明」に掲載することが決められ、4月号に復活の祝賀挨拶として掲載していく方向で準備を進めるので2月中に写真を担当者宛送るよう要請が行われた。
・2月のウェイン司教の予定が報告された。2/25カリタス沖縄の講話。3/17石川教会公式訪問。
・次回3月の司祭会議は3月5日（火）、10時から教区センター（安里教会ホール）で行われる。

2024年2月18日　承認：ウェイン・フランシス・バーント司教　記録：新田 選

神様からのお返事

開南教会　マリアイマクラタ 宮良多鶴子

希望に満ちた新しい年を迎えた元旦の夕方、テレビ番組の途中で緊急地震警報が鳴り続け、アナウンサーが緊迫した声で避難するように叫ぶ。能登半島を映し出す映像に変わった途端、崩れ落ちる家屋！支えようと思わずテレビに手を伸ばした…。

なぜ？どうして！悲しみと怒りにも似た感情がこみ上げてくるのを感じました。東日本大震災の想像を絶する現場、熊本地震の被災現場を思い出し、停電、断水、寒さの中、過ごしておられる被災者の皆様の日常が、一日も早く取り戻されますように、そして、天に召された皆様が、どうか神様の御許で安らかに過ごされますようにと心の底から祈るばかりでした。どうか、どうか、これ以上被害が広がらないようにと祈る日々です。

二〇〇八年から行っている東ティモール支援をきっかけに、支援を必要としている現場の実態を知ることとなり、導かれるように被災地支援にも携わるようになりました。

支援を必要としている皆様の必要な物は、支援する側が考えている物や現状とは違っていることが往々にしてあります。刻刻と変わる必要な物資やその情報を細やかに把握することの重要性もまた、東ティモール支援の現場で学びました。

その中には、確かに理不尽に思えることもありましたが、何よりも今、支援を必要としている皆様が、命を繋いでいくことが最重要と考えれば、それも理不尽とは言い難く、むしろ、支援の形が変換されたと受け止めた方が良いではと思えることもあります。

例えば、東ティモールで実際にあった事例ですが、日本から送られてきた古着の支援品。その中には沖縄から届いているものもあり、トレーニングウエアーには沖縄の中学校の学校名がありました。それが、貧しい地域のマーケットで売られていたのです。大使館の方からは、「皆さんのご厚意が無駄になるから、もう送らないでよいです」とのこと。本当にそうでしょうか…。貧しい地域の皆さんにとって、現金収入は日々の糧を得るため、家族を養っていくためにどうしても必要。支援で送られてきた古着がどのルートを巡ってマーケットで売られたとしても、それを売ることで現金を得て、日々の糧で家族の命を繋ぐとしたら…子ども達が学校に行けるとしたら…貧しい人々の暮らしの実態を知れば、その方法もまた皆様の想いの広がりと考えることができるのではないかと思っています。

二〇二一年四月、東ティモールが大洪水に見舞われた時、東ティモールに関わる皆さんがそれぞれのやり方で支援を始めました。クラウドファンディングでマスクの寄付をしようと動くグループもありましたが、私はまず、今必要な支援品を知るために、現地にいる日本の防衛大学校卒業生で、日本での生徒交流プログラムにも引率で参加してくれた海軍士官たちに連絡を取りました。被災者と避難所の状況、現地の交通、支援品は何が届いていて、何が不足しているのかを各避難所に行って確認してもらいました。

食料、衣類など、大人用の物はたくさん届いているけれど、乳幼児用の支援品が無いとのこと。乳幼児とお年寄りの支援物資の不足は、どこの被災地でも同じ課題を抱えることになります。物流の状況と現地に物があることを確認し、コンサートで皆様からお預かりした募金も合わせ、すぐに送金しました。数日で届き、子ども達のおむつや離乳食に使われ、続いて送金した支援金はシスターに届けて頂き、シスターが被災者の食料としてお米を購入して下さいました。後日、シスターからトラックいっぱいに積まれたお米、それをシスターたちが皆様にお渡ししているお写真が届きました。みんな笑顔でした。

使い道を限定される支援は、時として現地の皆様のニーズに即応できません。そのまま放置され、使えなくなるということもあります。現地の皆様が今必要とする支援、自由に使える支援、そして、スピードと継続がどれほど現地の助けになるか、支援を通して実感しています。

東日本大震災後の東北支援においてもまず被災地の状況を知るため、関東にある大崎連絡協議会と連携をとりました。四千名の会員からの情報で、東北一体の状況がわかります。

震災前年の二〇一〇年六月二十三日慰霊の日に、同会会員で古川学園高校ＯＢの皆さんが主催し、宮城県大崎市にある同校で平和コンサートさせて頂きました。３・11の震災が報道された時には、居ても立っても居られず大崎連絡協議会に連絡をしました。

孤立している数か所の避難所と老人福祉施設の存在を知り、数日おきに電話をし、その時に必要な物をお聞きして支援物資を送り続けました。数週間、送り続けることで、避難所にいらっしゃる皆様が仮設住宅で暮らせる日常品が整います。

その後、二〇一一年七月、大崎連絡協議会の皆さんと一緒に、支援物資を送った地域、塩釜、石巻、そして古川駅を含む六か所で応援コンサートをさせて頂きました。数日間、どのステージも全身全霊で歌わせて頂き、一日数ステージを終えて宿泊先に戻る頃にはもう立ち上がれない程でした。その後も数年間、東北に通い続け、今も皆様とお便りのやり取りをしています。

熊本地震の際には発災直後から熊本入りし、現地の状況を何

度も確かめに行きました。私を熊本の被災地での活動に導いてくれたのは、バプテスト教会の信徒Hさん。彼女に送ったメールがきっかけで、阿蘇郡西原村でのコンサートをスタートとし、宗派を越えたクリスチャンの皆様の連携で熊本での活動が始まりました。

初めてお会いした彼女に、なぜ私の事を信頼してくれたのかと尋ねました。「これまで、ボランティアと言いつつ、違う目的の方からもたくさんの連絡を受けてきました。あなたのメールには、神への信仰を感じることができたからです」とのお返事。Hさんとは、今でも毎年お会いしていますし、彼女の家庭集会に招かれて講話をさせていただいたこともありました。更には、彼女のご子息が大学生の時に東ティモールスタディーツアーに参加し、東ティモールの生徒たちが、彼女の住む西原村の中学で交流をするという幾重にも重ねられたご縁と神様のお導きを感じる結果となりました。二〇二〇年のコロナ禍、コンサートも各教育機関での公演もすべてキャンセルになるという窮地。それに加えて届くバッシングのメール…。

「あんた達、歌手が感染を広げている！それでも活動を続けるつもりなのか？」

これまで、皆様の心を癒し、神の愛を届けたいと歌い続けてきたのに、なぜこんな言葉を…。

悲しみとショックで打ちひしがれていた時、熊本地震支援の際、共に演奏させていただいた陸上自衛隊西部方面音楽隊長から、「八代の水害に遭われた皆様を演奏会にご招待したいので出演して欲しい」とのご連絡を頂きました。

嬉しくて、即快諾し、支援活動時にご縁を頂いた皆様に、躊躇しながらも演奏会ご案内のメールをお送りしました。皆様から届いたメールには「待ってました！」の嬉しいお言葉。「私の役割は、たとえどんな世の中になろうとも歌で皆様の心を癒し、神様の愛を届けていくことなのだ」と納得し、勇気づけて下さるお言葉でした。今年の元旦、一通の封書が届きました。在京古川学園高校同窓会事務局の方からでした。封を開けてみると同窓会の会報と一通のお手紙が入っています。付箋を貼られた会員からの投稿を読み、涙が止まりませんでした。

二〇一二年卒業のソプラノ歌手の方の投稿で、震災後の人生が書かれていました。

「大震災は人生観を変えた。三年の夏、古川駅でオペラ歌手の歌声に足を止め、ただ涙が止まらなかった。初めて聞いたマイクも通さない温かい歌声に、何か寄り添うようなものを感じ、音楽は単なる娯楽ではないと思えた。そのオペラ歌手に憧れ、当たり前は簡単に崩れ得る、後悔しない今日を生きよう、と音楽の道へ飛びこんだ。夢への第一歩だった。（略）」

二〇一一年七月、六か所で慰問コンサートを行った中のひとつ。古川駅でのコンサート。その会場に居た女子生徒が十三年経った今、ソプラノ歌手として世界で活躍している！

神様から答えを頂いたと確信した瞬間でした。何度も頂いている神様からのお返事。そのすべてが、皆様と共に活動した結果です。一人では難しくても、皆様と共に歩み、神様が共に居て下されば歩み続けられます。悲しみも神様からのお返事ですべて帳消しです。

ちょっと時間のかかる神様からのお返事を求めながら、これからも神様の愛を伝え世に尽くしていくために、歩むべき道を信仰と共に、また皆様と共に歩んでいきたいです。

教区NEWS 教会

コザ教会女性部便り

二月十八日、日曜日のミサ後、コザ教会女性部は「お互いの親睦と知識を深める」という目的でバスツアーに出かけた。神父様と運転手を含めて総勢二十二名。名護グスク公園、国立療養所愛楽園、古宇利島、今帰仁城趾、八重岳の長距離コースで、花見を兼ねてのツアーであったが、残念ながら桜は見頃を終えていた。それでも満開の桜木があちこちで私たちを迎えてくれた。

愛楽園のカトリックザベリオ教会で祈りを捧げた後、交流会館の展示場へ。病と差別に呻吟する人々の声が聞こえるかのようだった。凄まじい隔離政策の史実が沖縄にあったことにショックを受け、早速家族に話したという参加者もいた。

古宇利大橋の眼下に見えるコバルトブルーの海に歓声を上げながら一路今帰仁城へ。八重岳を廻り帰途に着いたのが五時を過ぎていた。バスという空間の中で、祈り聖歌、歌声、おしゃべりでお互いの交流を深めた有意義な一日が過ごせたことを神様に感謝します。

（松堂康子通信員）

2024 年 1 月 20 日より、カトリック名古屋教区は能登半島地震災害対応のための拠点として、カトリック金沢教会に「カリタスのとサポートセンター」を開設しました。
下記の URL は、能登サポートセンターの「のとせんブログ」です。
「カリタスのとサポートセンター」の能登半島地震災害支援活動の様子が掲載されています。https://notosen.blogspot.com/

のとせんブログ

訃報

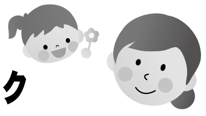
◆開南教会
マリア　浦崎　秀子　様
二〇二四年一月三十日帰天　享年九十六歳
マルコ　金城　令　様
二〇二四年二月九日帰天　享年六十一歳

◆普天間教会
マリア　新垣　貞子　様
二〇二四年二月十七日帰天　享年九十八歳

◆首里教会
マリア・テレサ　西平　孝子　様
二〇二四年二月十八日帰天　享年九十二歳

◆聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会
Sr.マリア・アスンタ　宮城　安子　様
二〇二四年二月二十日帰天　享年八十歳

那覇教区子どもと
女性の権利を擁護するデスク
相談窓口☎098-863-2020（火・水・木 13:00～17:00）



† パドアのアントニオ
泉 富士男 神父

1929 年 6 月 17 日　沖縄那覇市生まれ。
1934 年 4 月　受洗。
1963 年 3 月 18 日　東京教区で司祭叙階。
東京教区司祭として各小教区で主任司祭を歴任。
2024 年 2 月 13 日帰天。享年 94 歳。

葬祭の「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
http://w1.nirai.ne.jp/yasurai
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
葬典社（そうてんしゃ）

＊創業30数余年・・・。
＊皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
＊ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。

（実務担当）比嘉（ひが）　高茂（たかしげ）

24時間受付

☎098-853-1059（てんごく）